

仙台市文化財パンフレット第13集

# 仙台の中世

— いくさ・いのり・くらし —



「体験学習の思い出」  
大野田小6年  
早坂健一君の作品(上)  
伊藤信弘君の作品(下)



東光寺出土の鬼瓦

仙台市教育委員会

# 中世の仙台地方

中世は鎌倉時代から安土・桃山時代にかけての約400年間に相当します。文治5年(1189)に源頼朝が平泉の藤原氏を討った後、多数の鎌倉武士が東北地方に所領をもつようになりました。陸奥留守職に任命された伊沢氏(後の留守氏)をはじめ、牡鹿郡の葛西氏、宮城郡の国分氏、名取郡の結城氏などです。南北朝の内乱期には東北地方最大の激戦とも言われる岩切城合戦が行われ、北朝方の留守氏はこれを機に没落していきました。その後戦国時代になると伊達氏の勢力が広がっていき、中世の終末には仙台藩祖、政宗が登場します。

今回は中世に多数造られた城館、多様化した信仰、人々の暮らしに注目してみました。



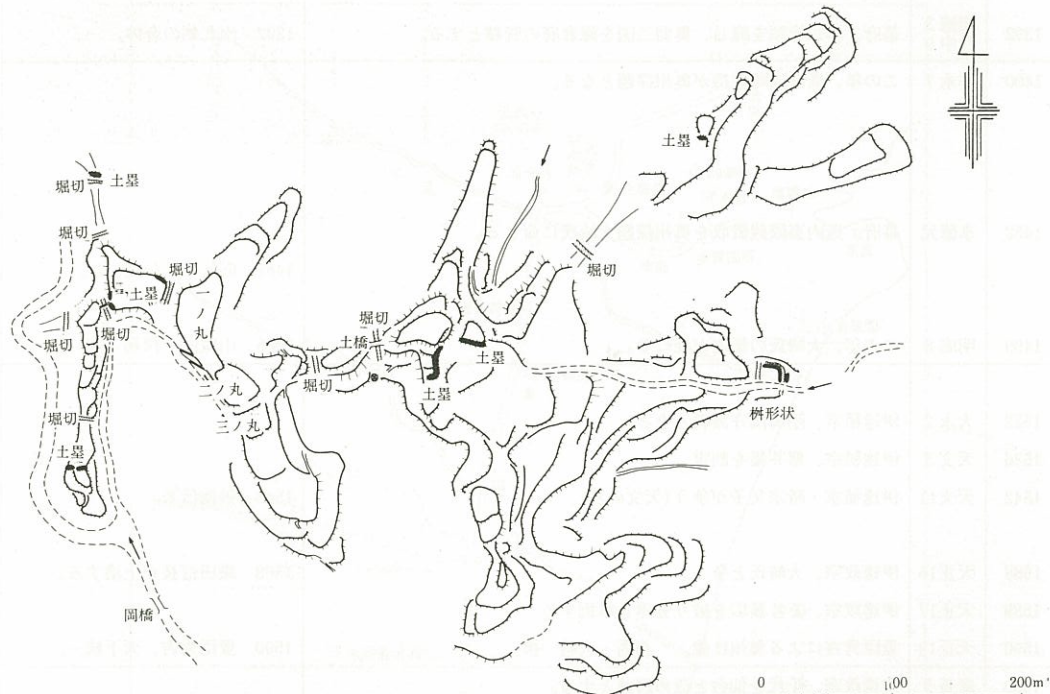
中世の仙台周辺概略図  
(「図説 宮城県の歴史」を参考にして作成)

西暦	年号	県内のおもなできごと	国内のおもなできごと
1189	文治5	源頼朝、奥州藤原氏を滅ぼす(奥州合戦)。葛西清重が陸奥国御家人の奉行を命じられる。	
1190	建久元	伊沢家景、陸奥国留守職となる(後の留守氏)。	1192 源頼朝が鎌倉幕府をひらく。
1229	寛喜元	この年、名取新宮寺一切経の書写がはじまる。	1221 承久の乱
1256	康元元	幕府、奥大道の夜討・強盗の取り締まりを郡郷地頭に命じる。	
1259	正嘉3	陸奥をはじめとする諸国で飢饉おこる。	
1273	文永10	(柳生地区板碑の初見)	
1278	建治4	(東光寺板碑の初見)	1274 蒙古襲来(文永の役) 1281 〃 (弘安の役)
1334	建武元	建武新政による陸奥国府の体制がととのう。	1333 鎌倉幕府たおれ、建武新政はじまる。
1337	建武4 延元2	陸奥国府が北朝方におちる。	1336 足利尊氏が室町幕府をひらく。南北朝の対立おこる。
1345	貞和元 興国6	畠山国氏・吉良貞家が奥州管領となる。	
1351	観応2 正平6	吉良貞家が畠山国氏を岩切城に討つ(岩切城合戦)。南朝方(北畠顕信)が陸奥国府を奪回。	
1352	観応3 正平7	北朝方(吉良貞経)が国府を再び奪回。	
1392	明德3 元中9	幕府、奥州管領を廃し、奥羽二国を鎌倉府の管轄とする。	1392 南北朝の合体。
1400	応永7	この年、斯波大崎詮持が奥州探題となる。	
1452	享徳元	幕府、造内裏段銭徴収を奥州探題大崎氏に命じる。	1467 応仁の乱(~1477)。
1499	明応8	この年、大崎氏の領内が乱れる。	1485 山城国一揆おこる。
1522	大永2	伊達植宗、陸奥国守護職となる。	
1536	天文5	伊達植宗、麁芥集を制定。	
1542	天文11	伊達植宗・晴宗父子が争う(天文の乱)。	1543 鉄砲伝来。
1588	天正16	伊達政宗、大崎氏と争う。	1568 織田信長が上洛する。
1589	天正17	伊達政宗、蘆名義広を破り会津を掌握する。	
1590	天正18	豊臣秀吉による奥州仕置。葛西・大崎一揆。	1590 豊臣秀吉、天下統一。
1600	慶長5	伊達政宗、千代を仙台と改め居城とする。	1603 徳川家康、江戸幕府をひらく。

中世史略年表

# 城 館

東北地方では土塁・空堀などの防禦施設をもつ遺跡を一般に「タテ（館）」とよんでいます。これは関東以西で一般的によばれる「シロ（城）」と同じ意味で、城郭をさしています。これらの中には豪族等の居館も含まれていますが、大部分が城館跡です。中世の城館は、主に険しい山に築かれています。山腹に堀を切ったり、斜面を削って平場を作り、防禦のためのそなえをつくっていました。普段の生活は山のみとの屋敷で送っていたようです。宮城県内に存在する中世の城館跡は約950で、遺跡総数の約4分の1を占めています。その多くは戦国時代に集中しており、宮城県内でも激しい戦いの時代があったことを物語っています。「大館」「館山」「館」「館前」などの地名は、昔その場所に城館のあったことを今に伝えているのです。



岩切城縄張り図

## 旧仙台市内の主な城館

- 岩切城 留守氏の居城で岩切城合戦の舞台
- 今泉城 国分氏の家臣須田玄蕃の居城か
- 沖野城 国分氏の家臣栗野大膳の居城か
- 富沢館 戦国時代、山岸氏の居城か
- 茂庭けんとう城 茂庭駿河の築城か
- 茂庭大館 茂庭氏の祖河村四郎秀清の館か
- 根添館 後三年の役、安部氏と関連か

## 旧泉市内の主な城館

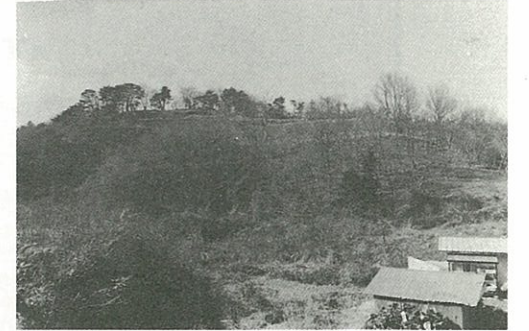
- 長命館 国分氏の家臣の館か
- 杭城 南北朝期の争乱の拠点

## 旧宮城町内の主な城館

- 御殿館 「国分の三十五城」の一つか

## 旧秋保町内の主な城館

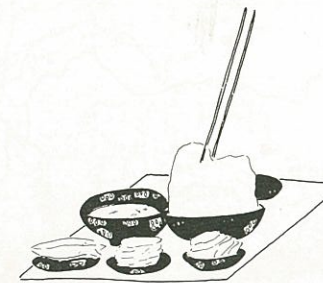
- 長館 秋保豊前の先祖秋保平三郎の館か
- 豊後館 秋保撰津守定重の館か



岩切城東部



岩切城東部の平場

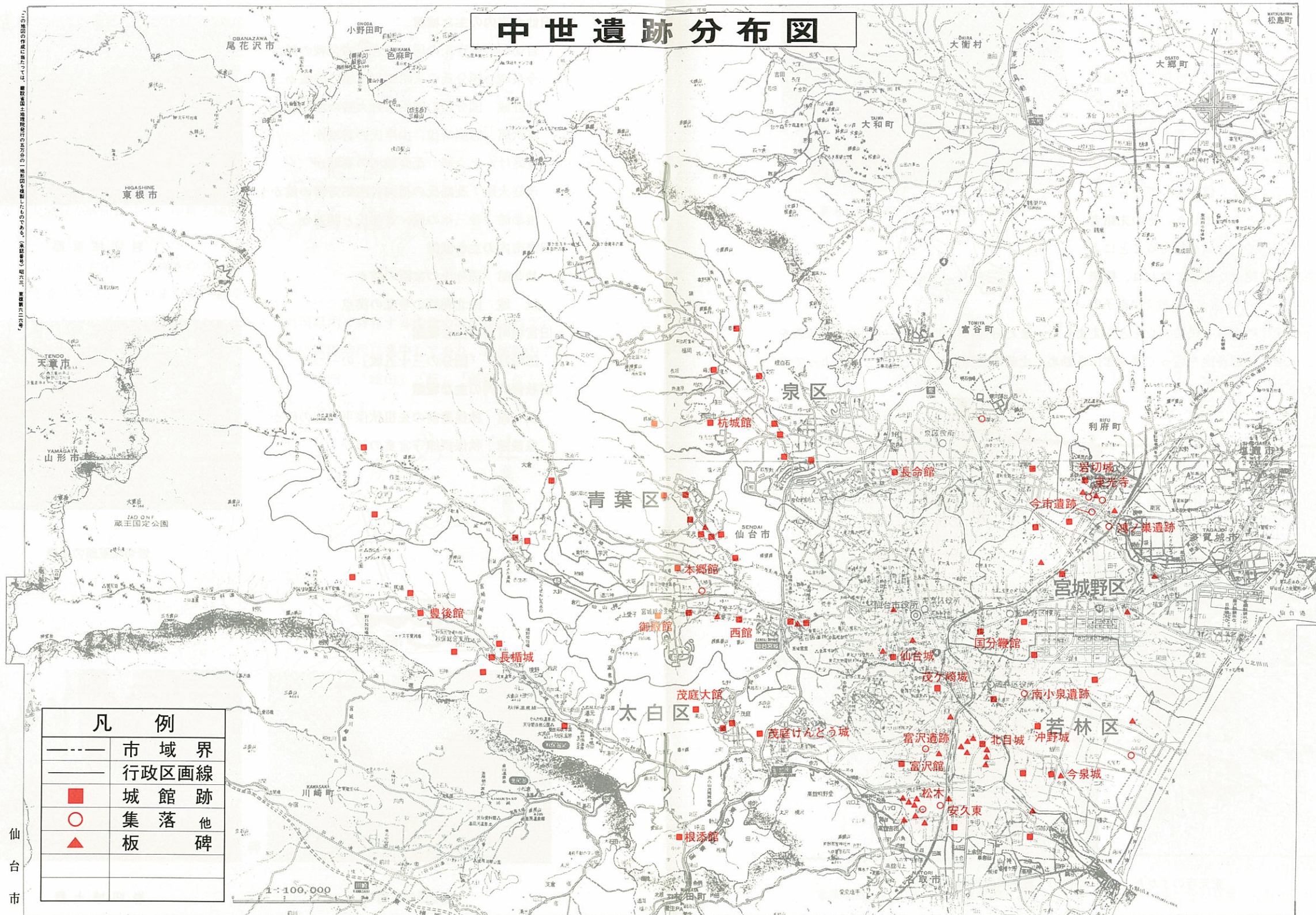


岩切城堀り切り



岩切城土塁

# 中世遺跡分布図



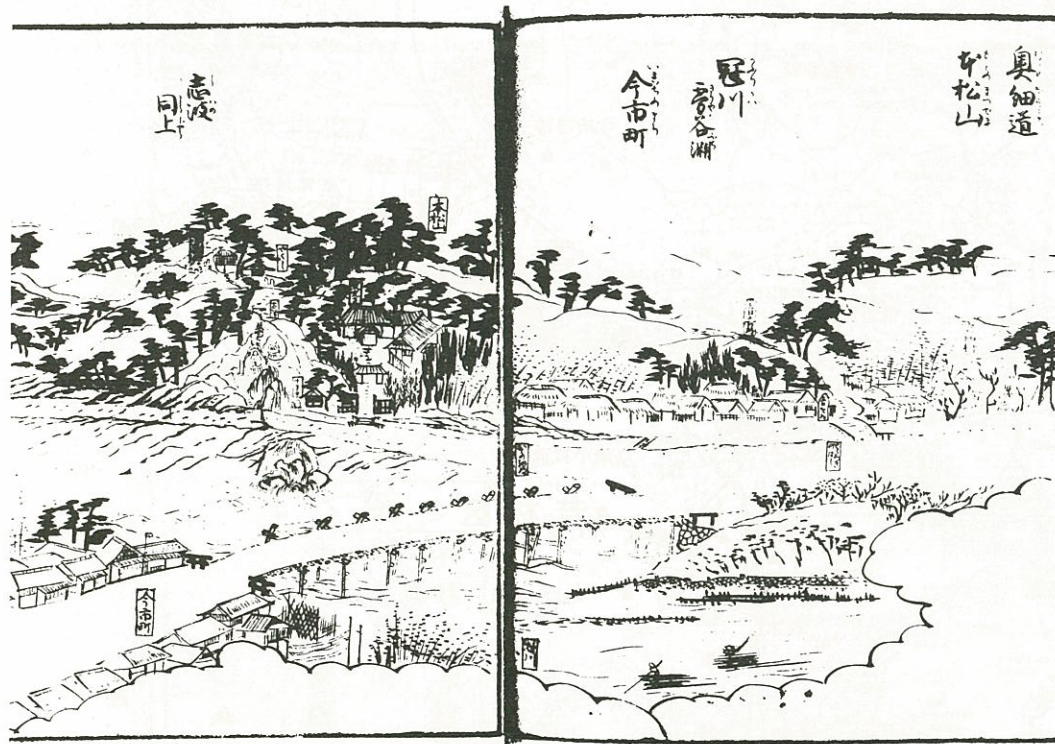
凡 例	
-----	市 域 界
—————	行政区画線
■	城 館 跡
○	集 落 他
▲	板 碑

昭和63年10月

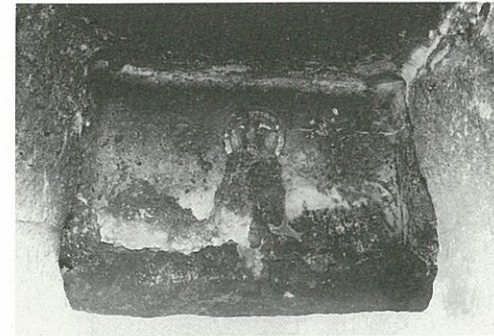
仙台市二丁目13-30 ●980 ☎022(222)8461(代) 株式会社 仙台地図の店

# 信 仰

仏教が日本に伝わって約700年たった鎌倉時代には宋・元から新しく「禅」の思想が伝わり、そのころ抬頭してきた武士階級に支持されました。またこれとは別にこれまでの仏教を学問としてではなく信仰としてとらえなおす動きがさかんとなりました。その先駆者となったのが法然で、念仏を称えることによって阿弥陀如来の絶大な慈悲に救われ、極楽往生をとげることができるという教えは弟子の親鸞によって受け継がれて民衆の心をとらえました。また日蓮は現世を肯定した新しい仏教を成立させ、一遍は全国各地を巡って踊り念仏を勧め、土着の信仰を取り入れることによって念仏をひろめました。



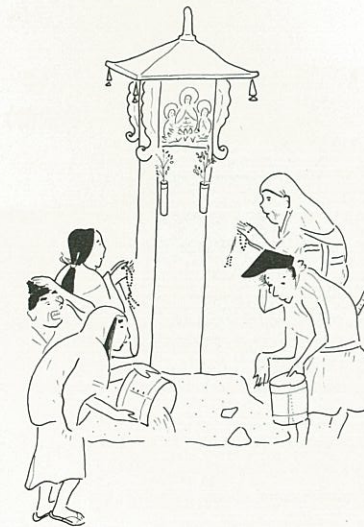
東光寺のすがた (江戸時代の「奥州名所図会」より)



東光寺の石窟に彫られた地藏菩薩像



東光寺出土の軒瓦



塔婆をおがむ人々 (「餓鬼草紙」より)

## 板 碑

中世の信仰を今に伝えるものの一つです。これは死者をとむらうためにつくられた石の塔婆で、表面には種子(梵字)・年号・造立理由等が彫りこまれています。仙台および周辺では、岩切・郡山・西中田・名取高館に集中して残っています。



東光寺の嘉暦二年銘板碑拓本

# くらし

発掘調査では中世の人々のくらしの痕跡がたくさん見つかります。

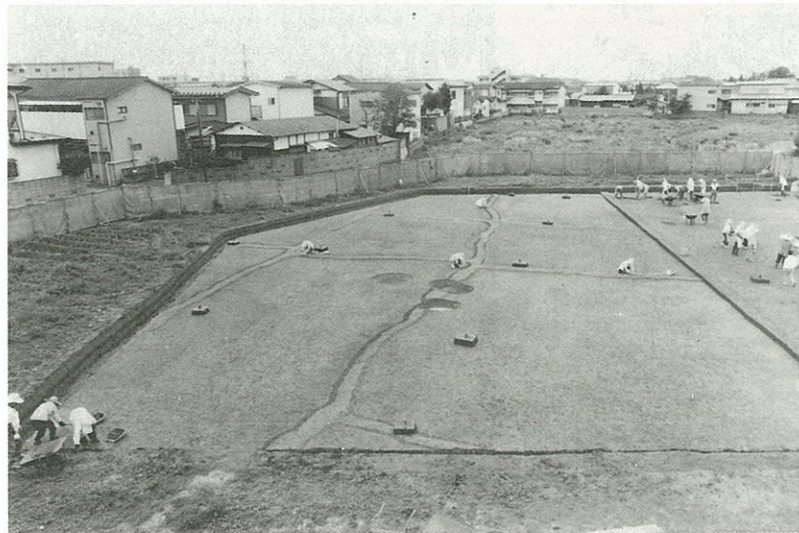
衣——衣服等の繊維質は普通はくさってしま  
い残らないので、絵巻物などで推定せざるをえません。わずかに下駄などの木製品が見つっています。

食——遺跡から出土するものの大部分は、食器・貯蔵容器等の土器や木製品類です。  
「かわらけ」とよばれるおわん形の土器とこなめや漆器等のほか常滑や瀬戸といった東海地方等で焼かれた陶器もかなり運ばれました。一部では中国製の磁器も使われました。

住——中世の遺跡からはおびただしい数の小穴が見つかります。これは当時の掘立柱建物の柱の跡で、建物が何度も建て直されたことを示しています。他に井戸跡や溝跡や土倉どそうとよばれる倉の跡などがみつっています。

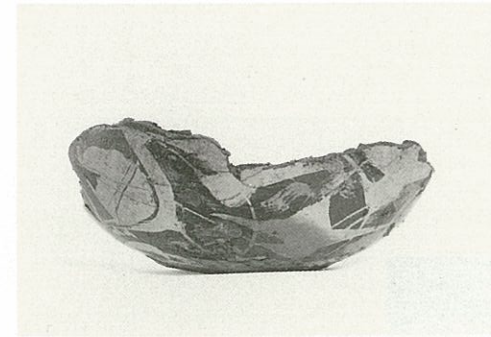


中世の水路 (富沢遺跡)

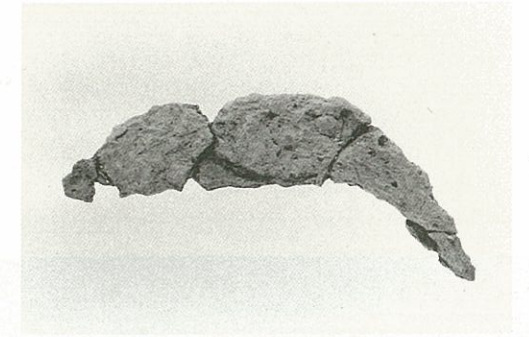


中世の水田 (富沢遺跡)

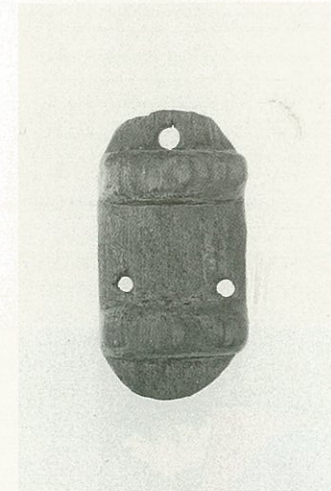
# 今泉城の遺構と遺物



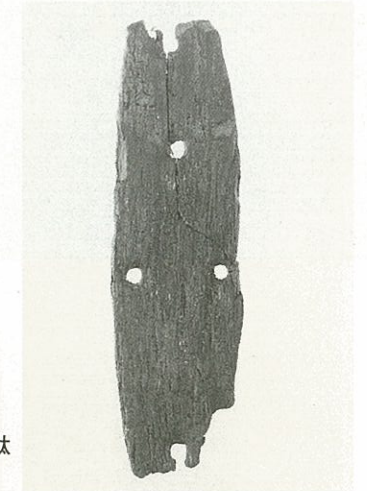
漆器・椀



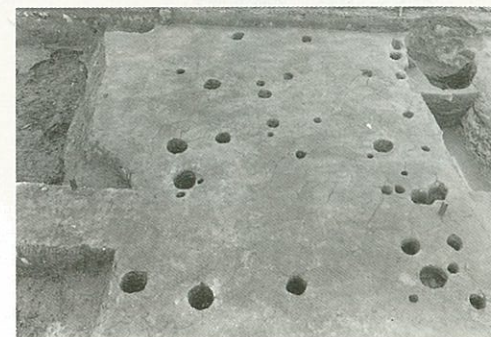
鉄製の鎌



下駄



田下駄



掘立柱建物跡



井戸